

2021年 秋季大祭・秋季合同慰霊祭 のご案内

大祭執行委員長 三矢千恵子

【日時】令和3年10月17日(日) 午前10時より
 【場所】大本三河本苑
 【諸行事】冠沓句巻開き

◎市杵島姫命様の秋季大祭は11月になります。宜しくお願ひ申し上げます。
 ※尚、詳細は後日、各機関長へご連絡致します。



10月号
 2021・10 No.473
 (発行者)
 大本三河本苑
 〒443-0031
 蒲郡市竹島町28-5
 TEL 0533-69-7518
 FAX 0533-69-1455

お知らせ
お子さま・お孫さまの写真を募集
 只今、三河本苑では、「50年記念誌」を作成中です。この中に「青少年のコーナー」を設けて、子供の顔写真を掲載します。
 (※切)令和三年十一月末まで
 (連絡先)写真係/山口稔起、高井郁代
記念誌写真係

「デジタル時代に思う」

特任宣伝使 松永孝司

昨今、世界で「デジタル時代」が急激に進んでいる。日本政府もデジタル化に力を入れ始めた。コロナ禍と歩調を合わせたきらいが感じられてならない。ある面では非常に効率的な事項もあるが、その反面不利益な事項も多々あるのではないか。

この問題は広範囲に影響するので、全てを述べることは出来ない。今回は、我々日常生活に関する事項に絞ってお話する。何でも、リモート(オンライン)で行う「新しい生活様式」と称して、デジタル(AI)社会の徹底化によって、リアルな対面による温もりのある交流が益々できにくくなってしまっているのではないかと懸念される。

社会や組織の中にデジタル技術が浸透させていくことをデジタルトランスフォーメーション(DX)と言いますが、企業や自治体などは、これや革新的なイノベーションをもたらしものとして、こぞDXのプロジェクトを進められています。これは、AI(人工知能)や5G(第5世代移動通信システム)といった技術も無批判にどんどん拡充されていくことを意味している、人間そのものがデジタル化されてしまっている、日本的情緒や感性を損なわれ、想像力や創造力といった人間らしさも脆弱になってしまっている。デジタル通信は、高齢者などITやネット環境に苦手な人を切り捨てると同時に、リアルな対人コミュニケーション(オフ

ライン)よりも冷たく、一方的でつい過激な表現になりがちである。コロナ禍の感染拡大防止を名目にした、テレワーク、在宅勤務、リモートワーク等の「出社をしない」働き方が推奨されていますが、政府の方針やマスコミ報道を見ると、「新しい生活様式」という言葉の裏に、デジタルインフラの強化・拡充による徹底したIT/AI社会を押し進めたいという意図が見受けられる。実際、リモート会議、リモート飲み会、オンライン講座や授業、リモートオフィス等と称して分野や世代を超えてデジタルインフラ化が広がっていて、標準化されつつある。

また同時に、「電子決済・キャッシュレス化」も

10月の行事
 ●17日(日)
 本苑秋季大祭・
 祖霊慰霊大祭
 ・奉納冠沓句
 ●18日(月)
 霊界物語全国一斉
 拝読会
11月の行事
 ●21日(日)
 本苑十月月次祭
 ・総代会

直心会より
**モンゴル支援献金
 バザーのご協力**
 十月より本苑に「常設コーナー」を設けました。
 ※詳細は十一月号に掲載

推奨されていて、現金を避ける傾向が高まっている。高市総務大臣などは、マイナンバーと銀行口座の紐付けが義務化に向けて取り組みを明らかにしている。これらは、デジタル社会についていけない人々を切り捨て、すべてIT/AIによって一元的に管理・コントロールできる体制をつくらうとしているように見える。しかし、

一般の小市民にとつては、デジタルインフラの推進によつて生じる問題や弊害も多く、それだけストレスフルな社会になる恐れがある。

なぜ、バーチャルなコミュニケーションだけを続けていると問題が生じるかと言うと、そこでやり取りする情報が極端に制限されて、それをカバーするアナログ的な対応ができにくくなるからです。情報のやりとりは、単に言語（言葉）だけではなく、心理学における「メラビアンの法則」によると、相手に伝わるのは言語情報が僅か7%に過ぎず、聴覚情報（口調や・速さ・声の質など）が38%、視覚情報（見た目や視線・表情など）が55%と言われています。つまり、相手と円滑なコミュニケーションをはかるためには、声のトーン、間、いい方、会話のテンポ、さらに、顔の表情や動作、腕組みといったしぐさなど言葉以外の非言語的な要素が非常に大きな役割を果たしているの

私が朝食を摂らない訳

(その2)

三河豊田支部 杉山 孝

「断食を破る」という意味でできたのが breakfast であり、本当は朝食という意味ではありません。晩飯の次の昼飯までの間に摂る食事を breakfast としたのです。

食事に関して、聖師様は「月鏡」で「食事は二食が良い」「三度四度食べるのは労働が食うのである」「12時間おきに摂るのが良い」と言われております。

平成27年5月、TPP交渉即時撤退のビラ配りを始めたのが私の転機でした。TPPビラ配りで私の役目はマイクを持つての街頭説明でした。人類愛善会からのレジメだけでなく、自分のしゃべる言葉を自分で調べて臨んでいったのでした。

ここでTPPが批准されるととんでもないことが起こりますが、その中で私が一番危惧したのは国民皆保険制度の取り崩しでした。大企業が国を相手に国民皆保険制度をやめろというと考えたのです。今日はここまで。

である。

リアルな対面でのやり取りであれば、お互いにこうした全体情報を理解しながら、言語と非言語の両方を介して相手の言いたいことや感情、意志などを理解できます。

ところが、リモート（オンライン）などのバーチャルなコミュニケーションの場合は、どうしても機械的なやり取りになるため全体情報が制限されるので、誤解や曲解が生じやすく、感情もかみ合いにいくくなる。そもそも人間の理解力や思考力、想像力といったものはア

ナログ的な働きが大きいことから、デジタル社会になればなるほどその能力が欠落して、その結果、感性や知性が乏しいデジタル人間が増えることが予想される。

一言で言えば、コミュニケーション不全の「デジタル人間化」です。これは、洗脳する側からしてみれば、彼らたちにとっては最も都合のいい方法です。なぜなら、デジタル（AI）人間は、電子制御によつて動かせるロボットのように、彼らの思い通りに管理・コントロールしやすくなるからです。

我々高齢者は、世界のデジタル社会に遅れることなく、老体に鞭を打つて、スマホやパソコンなどコンピュータの勉強に励み社会に溶け込んで行くか、また社会から孤立した人生を送るか、自分で判断し選択することになります。「デジタル化」時代は、地球が、恐ろしい電磁波に晒されることになり、健康が脅かされるのが予想されます。我々は対抗策を考えて対応しなければならなくなり、大変な時代に遭遇することが予想されます。

「鯉」

「日出庵先生之旧稿(上巻)」より
大正十一年

特任宣伝使 芝田豊海

昔からの鯉は河の龍、鯨は海の龍、馬は陸上の龍と言ひ伝えている修行中の一変化である。

紙で目隠しをして生きたままをお供へした鯉は決して後で食うべきものではない。

これは町重(ていちょう)にしてどこかへ放してやるべきである。死んで暫く経つたのは酢か梅酢を飲ませてやれば大抵は生返るものだ。

藁苞(わらづと)などに入れた時でも注意して縦に下げて鼻を打たぬやうにさへすれば廿五時間は大丈夫生きていくものだ。

鯉の種類は数百種あつて其中でも真鯉：所謂(いわゆる)漣登りをしたりするのはこれである…は鱗が三十三枚あつて現在我国には滅多に見当たらない。

大本の金竜海にも僅(わず)か一匹居る？(だけ)である。兎に角、鯉は出世魚であるから、無暗に殺生して食膳に上(た)すべきものでない。」

人間も現界では修行中で、身魂磨きに励み向上しています。わたし自身、霊界に行つても、向上できる身魂を持ち続けたいと思います。

連載 大本のぼれ話